

平成30年12月3日

三木市議会
議長 内藤博史様

民生産業常任委員会
委員長 初田 稔

行政視察報告書

下記のとおり委員会行政視察を実施いたしましたので、会議規則第107条の規定により報告します。

記

1. 参加者

初田 稔（委員長）、大西秀樹（副委員長）、大眉 均、草間 透、岸本和也、
藤本幸作、加岳井 茂、松原久美子
（委員外議員）板東聖悟、泉 雄太、堀 元子、古田寛明、穂積豊彦、内藤博史
計14名

2. 視察内容等

日 時		場 所	内容及び対応者
11月8日	13:20 ～ 14:40	株式会社 岡田金属工業所	地場産業事業の取組 (対応者) （株）岡田金属工業所 代表取締役社長 岡田 保 専務取締役 岡田 文夫
	15:00 ～ 16:30	山陽アムナック 株式会社	農業事業の取組 (対応者) 山陽アムナック(株) 取締役会長 藤田 彰 取締役社長 藤田 雅哉 取締役専務 藤田 尚宏

3. 所感

(1) 地場産業事業の取組（㈱岡田金属工業所）

- ・ 徹底した自動化により省力化が進んでおり、また製造機械を自社で製作、改良するなど、コスト削減とともに技術の流出防止も図られている。
- ・ 特に海外への販路拡大のため、語学が堪能な外国籍社員の登用や、海外で通用する商品の開発に努めている。
- ・ 青少年の健全育成を目的に市に寄付を行い、また、社長も商工会議所会頭など各種団体の役員を歴任するなど、自社のみならず市全体の発展にも大きく貢献されている。
- ・ 今後も三木市の地場産業を代表する企業として成長が期待される一方、行政としても、技術支援や補助金交付などを含め、三木の金物を地域の活性化に結びつけるためのしっかりとした計画や方針が必要であると思われる。

(2) 農業事業の取組（山陽アムナック㈱）

- ・ 農産物価格が低迷し、販売先の確保が求められている中で、米の精米、販売の取組と海外への展開は注目すべきである。
- ・ 生産した酒米を使用し、日本酒の醸造から販売までを行うことは、6次産業化の良い取組であると思われる。
- ・ 農業従事者の高齢化や後継者不足などにも対応でき、また作付面積の大小を問わず対応できる設備を導入している。
- ・ 就労支援や地域貢献を積極的に展開し、地元農家及び消費者との間に良好な関係を築こうとする姿勢を示しており、行政としても支援すべきと感じた。
- ・ 大規模な経営体に限らず集落営農や家族農業など全ての担い手に対して、農産物の価格保障、所得補償等により生産費用がカバーできる支援策が必要である。
- ・ 行政としても、三木市の農業を守っていく一つの方法として、民間企業の参入や既存の農業の企業化への援助指導を行うことが必要と感じた。